

裾野市

地形概況

東部は箱根火山外輪山西斜面、西部は富士火山とその裾野の高原、愛鷹火山・大野原溶岩原・愛鷹火山山麓緩斜面からなる。中央を黄瀬川が南流し低地を形成するが、この裾合谷は溶岩流で埋め立てられた低地で、やや起伏をもち五竜滝など遷急点も多い。

地質概況

黄瀬川の裾合谷は富士火山古期玄武岩溶岩流の埋積で、箱根火山は古期外輪山の玄武岩溶岩と安山岩溶岩からなり、山麓部には軽石層やローム層がのる。富士火山と裾野の玄武岩質溶岩、愛鷹火山の玄武岩質溶岩など火山地域が広い。

気象概況

年平均気温が推定 14.5°C、8 月に月平均気温が最高となるが 29°C程度、1 月に最低の-2°C程度と推定される。年平均降水量は推定 2,400mm 程度で、県内でも典型的な山岳多雨域で富士山の影響を受けている。年平均の推定日照日は 50%である。

災害事例 地震

- 1944 年 12 月 7 日（昭和 19 年）東南海地震 M=7.9
県中・西部での被害は大きかったが、東部・伊豆では被害僅少で、佐野で震度 4 であった。
- 1930 年 11 月 26 日（昭和 5 年）北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆北部を中心に大きい被害が出た。当地では深良村で負傷者 3 人、住家全潰 10 戸、半潰 5 戸、泉村で負傷者 3 戸、半潰 23 戸、小泉村で負傷者 3 人、半潰 2 戸、富岡村で負傷者 1 人、半潰 18 戸などの被害が発生、合計では負傷者 10 人、全潰 10 戸、半潰 48 戸であった。また荒廃林地は 58 町歩にのぼった。
- 1923 年 9 月 1 日（大正 12 年）関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震。当地でも家屋全潰泉村で 6 戸(1.0%)、深良村で 1 戸(0.3%)、富岡村で 5 戸(0.8%)、須山村で 4 戸(1.7%)の被害があった。
- 1854 年 12 月 23 日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
震度が、伊豆島田で 7、須山で 6 と推定されており、茶畑村の被害は居宅全壊 82 戸(60.3%)、半壊 4 戸(2.9%)、隠宅全壊 4 軒、土蔵大廊 5 軒、小家 104 軒であった。
- 1782 年 8 月 23 日（天明 2 年）M=7.3
小田原城で石垣破損、人家 1,000 余壊れる。箱根では山崩れ、大山では山崩れ、死者がでた。茶畑村の被害は本家全壊 9 戸(6.9%)、半壊 27 戸(20.8%)、灰家全壊 10 軒、半壊 1 軒、馬屋全壊 3 軒、八幡宮様全壊、拝殿 1 軒全壊した。

災害事例 火山

- 1707 年 12 月 16 日（宝永 4 年）富士山宝永噴火
宝永地震後、約 50 日で富士山の噴火が起り、宝永山を形成した。降灰量は当地で

厚さ 0.2 尺ほどである。

災害事例 台風

- 1856 年 9 月 23 日 (安政 3 年)

茶畑村は大風で居宅全壊 9 戸、半壊 27 戸という記録が残っている。

災害事例 冷害

- 1836 (天保 7 年)

飢人の記録は無いが天保飢饉の影響は茶畑村における享和元年(1801)571 人、文化 11 年(1814) 568 人、天保 6 年(1835)549 人、天保 13 年(1842)533 人と激減した人口で明らかである。また、天保 13 年には空きやも 13 軒が記録されており、異常な状態であった。

- 1786 (天明 6 年)

茶畑村には家数 43 戸(31.4%)、人数 122 人(20.7%)の飢人があり、天明飢饉以前の安永 6 年(1777) 590 人が飢饉後の寛政 9 年(1790)には 570 人となり、20 人(5%)の人口減少がみられる。